且坐式 花月式 茶支交會一致 上

491

797 .C48
7062

有客遠方来。予卒爾而問曰。卿不遠千里来。蓋有說飲。客乃出一小曲示曰。欲請先生之言。題于此書也。予閱之則茶書也。始論茶旨。終記如心叟所編之茶坐。花月等摸範。其言約。其旨悉。

雖然不同流之書也。予曰卿與予同学。如之何。不汲同流汲他流耶。客曰先生不見夫陽羨水欤。原一。而流亦非有多岐。故人以宛茶用者。取其清潔。而甘美耳。若清潔而甘美。豈限以陽羨

流水耶。予曰。卿所言似是然無陪人意耶。假以宗旨論之。夫名号家。而稱題目可欤。亦題目家。而混名号可欤。是人意之牢固。而不可外者也。茶亦然。已流、立。則不可混論也。客曰先生知

說其皮。未知說其肉。如云函則實是鄙俗之語。夫名号題目者。只此名号題目。而其要則一佛致。其術。則勧善懲悪。雖宗旨無數。不可有過之。倶釋尊掌中之事。然則何爲可。何爲不可爲。珠

光立茶法者。一爲交會語曰。君子以文會友。以友輔仁。茶雖一小事。亦會友助仁之道也。珠光割烹。紹鴎塩梅。利休盛饌矣。雖分流多。倶珠光握中之事。若知會友報信之道。亦何爲可。何爲

不可耶。與彼宗旨一佛致之意。何異之有焉。予曰。容以茶。明一佛致之旨。復釋會友助仁之道。于是書交會一致之字。以予云

寶暦甲申夏五月望浪華山人識

交會一致上

予茶の事を識者に問へり。曰利休ハ紹鴎流。紹鴎ハ珠光流なり。今遠州流あり。石州流也。有楽流あり。織部流也。宗和流也。藪内流也。庸軒流也。千家にも裏表宗守の三流あり。其作とする各一家の法を立て。互に是非を論ずといへとも。其源ハ皆利休流なり。元来交と云のこめに儲る流ものなき也。今のごとく家、

説を立て。是非を論する時ハ。却て文会の道
を欠なし。志あるとも各流義といふものを立
る事多きなり。此をすてゝ彼によりける事にも
あれバ。又此を貴ミかれを賤する事もあれとも。只
和敬清寂の意をもて交るへき事也。亦諸流
のいくさの形をいふに扱ハおいて右に交せ。
左に交せ。式ハ延して右に下れ是各一流義なるへし。是等
の事を以テ議論もなすへからす。只時の宜に志たかふも

亦風雅の一体なるへし。其外器物の元はつ
りひにいたるまで。取捨する許を路々の了簡に
なるへし。織部遠州其外諸流も。各取捨なし
有に。各一流儀の立さ所あるに。已に今の千家。古の
千家にあらも。是代々取捨するによりてなり。志
かまとも一流儀を究すして。取捨せハ妄作に
なりて却て茶意を失へし
右に云和敬清寂の文字を解せハ。和ハ温和柔

和ハ順なとの和にして。やはらかにうるはしき也。和楽の和とハ字訓些のちがひあり只温柔にして。是心なく信を報ずるを和とハ云也
敬ハ恭敬にして。粛然たる体の貌也。はなしむと云事也。器物のあつかひ。尊卑軽重えづくまなきを以よ。はなしむとハ。平論に人を尊敬する事のかぎりなきと。たとへハあなどりもつゝしむと云和訓ハ。つゝしむ体と云事也。放漫せざる事と云

清ハ清潔。清浄なとの清にて。すつきりと奇麗にする事也。洒掃ハ礼を学のはじめ也。心不潔なきハ甚業濁と以ふをさしなむべき也、
寂ハ万事繁雑ならざる体を云。此四字の心をとれて交会すべき事也。是珠光茶の湯建立の旨趣也。
或曰交会迎送において。茶に志くものハかうし。洒掃應對よろしくして。陰膳喰様献酬の趣。大かた志な事也。和礼躾方ハ民間において用ゐあるまじき事多し也

云
諸礼儀方ハ和礼の起所にして是を亦交会の儀之礼記
の旨ニ合せて茶も其餘風にして。別にまたいつ次秀吉
専茶礼を用ひ給ふ事。深き子細有事也
茶といへハ花車風流をのミ事として別の風雅なる
やうにおもへとたはあらず。風雅と云ハ常住の礼容にして
鄙俗を捨て優美に移ル。是を雅と云。子雅云所ハ詩書
礼楽。皆雅に言と也。今異類怪物を雅人執ると云。通
難き事也。いやしきを捨よきをとれを風流雅致とハ云へし。市欲人

に於てハ欲の欲をさる也。俳人に於ては誹諧
の趣を問ひ。茶人に於ては茶の意を汲て。深き
子細ハ不レ存といへとも。大略其旨を覚て是を紙
端に書記しぬれあるに。迎送一般。茶の坐。花月
等の規範有。人のもとめによりて写して贈之
云

○迎送一般

迎送一般といふハ。客を迎へ主ゆより送りて出ると

の作法ハいづれの流も大畧同一般也。
凡菓子湯振舞ハ。時日を定め。兼日に人数并、
と云事をやくそくすれバ也。扨其前日か。一両日前
か挨拶にゆく。是を前礼と云。主方よりも使出ス
よしの礼をいふべき事也。扨其日になれバ。朝より路地
の掃除して。雪隠。手水鉢。待合。腰掛。塵穴まで
心を付。道具ハ客の数ほど出し。或ハ硯料紙など
揃ぬ事もなし。煙草盆に煙草入忘ぬやうにすべし。兼

寒の菓子ハ手焙なども出しおくべし。但シ組。料理等の
取合せハかなひてよまし。さし合のなきを功者と云也。
客ハ日所あらバ云合せべし。所なくてあらバ。別にそれも
刻限よりおそなはらぬやうに無事也。
扨待合まで。礼服着用し。路地草履をはきて入べし。路地へ入。
客あひさつの様子を勝手まで案内をするなり。すきや
まき路地にハ。待合に掛板をつるしておく事有。それを客の数
ほど打てしらせる也。扨路地へ入てハ路地の掃除雪

隠の内其外亭主の心まかせにて所々とくと一
覧し。右腰掛の雪隠をみ終。たゞこのしなどして。
亭主のむかひをまつ也。
亭主ハ客の揃ひし所案内を申て。炭斗に炭組間
中と。挨拶して。静にくゞりを出。手水鉢の上ふたを取
すて。茶づけにおよんで客を迎ふ也。
亭主ハ水を
うつべし
或ハ新に水を添ふ事もあり茶湯かくべき
客ハ亭主の来ルを見て。腰掛を下り黙礼する也。

此時ハ互に会釈すくなきがよし。黙礼斗もよし。扨亭主
近くを見て。又腰掛より。たゞ二一帳のむかどもとりして。
扨客に挨拶して。茶づけに立て。各々ハ後の壁に立掛
。此各々かくのごとくして。とくを来礼の人始の如く
とくに出しそく是ハ来礼の人の後にまゐてたゝて茶室に通る
まて亭主のいふしをまちて
二階やうにしてよし
扨手水の辺より。先刀掛に刀
かけて。手水をつかふ。扨手拭掛なるなぐみの戸をあけ。
袖をもとにとりて。まづ上りくゝりてさらりを出し。
扨手拭をとりみ。懐中するなり。是此一通の心法なりさて

床の前に行して。掛物を見候。附时二客そこまで口へ
来りて。初の作法のごとく。終而のやうを見て。手を廻り
上ル。正客炉辺に退き候を見て。床へよるべし。上客炉を
をのき。かく行よつくを見て。二客又炉辺へ来ル。三客も
初の作法のごとく床前に候を見て床へかく候。幾
人もそもかくのごとし。終而もそ二人立ざ候ゆへり
する事也。末の客入りてハ。そこまでの戸をしむべし。其の時
亭かとよりて付ル也。扨掛物をかく候也。末客床前

を退て。正客前行く参也。行定の扇とりて扉に囲の内
へも持也。行而よりかやうな
行に於く事もあ
亭主ハ行定に候をとうじ也。猪口を静かに取て。先越
礼し。扨正客より一人ぐうまくの挨拶すして。扨
正客かどらひよく。路地の掃除等の挨拶して。扨掛
物の挨拶するべし。其定に候暫也。功者にありてハ。暫ひと
えづしての挨拶も有つきすべし。
扨亭主炭斗をとこびおし。其所に置。灰ほうろくそれ

入。躙り口ふさぐ。但乃半付の道具にて乃畳の内ニ炭とり
ほうろく組入て置事も右さ人ハせめがよし
うり又大目道具の角の柱に点合　風炉の炭ハ雑後(ざんご)し
羽帚を置事も別に仕方なし
扨炉の前に道具を直す。扨羽帚出し。点合出し。いづれも
置場に置く。火たきしもおろすも事な
ふたしく志てあくべし
扨環(くわん)を取出し釜に掛る。ははくさのありしひた
くむしく志つべし
扨釜を出し置場に置く。新目あと
わこき敷板　扨釜を上げ環ハ
とりして置場に置く。
扨羽帚取。炉縁をふくを相済て。初客挨拶して炉辺

へりて下火(さび)を見ぬく。風呂にてハすりて下火見つくる事なし
但室下見やる事
扨亭主下火出し。灰ほうろくよせて。灰をまき。かうろくハ
勝手の方へ取のけ。又羽帚にて五徳の爪までも
そとふく。扨枝(えだ)炭ハほうろくへ入のけ。扨炭を
しまひ。又枝(えだ)炭を炭斗へ戻し。枝炭置て。ほうろく
始の場(ば)へ直しおく。扨点合を取。柄杓と蓋置。蓋(ふた)を
する時客点合乞(こう)う。炭見てすぐに勝手へ下る事なく又
柄杓の置位をもみて退く事なし
上客の仕方に　扨亭主点合出しけれバ。上客の右(ざちう)に
志ざりつべし

夫よせ候とき。亭主の仕方をよくと見はからひて亭主も
魚会を出し候とき。釜の前へ居なおり。釜の蓋をとりて
湯の減を見て。水次より手次にかはるく指入る　風呂ハそハ
けむ時釜下不申して見斗候流義による
扨水次ニ引切手巾を添て持出。
釜にむかひ礼して。蓋置を出し。蓋をとり。手巾持添
水を次足し。扨釜の蓋をすべし。引切ハ水次の口ニ掛
ながら。蓋の上にながらして。扨釜の上手にて手巾にて。釜の
蓋をも。胴をも。肩の辺りをも。とくとふきて。手巾ハ水次へ

かさねお入るべし。口切ニハ塗行口風呂の時ハ木地　行口を用木地ニ三の行らひ三　扨炉に
むかひ礼して。釜をとりけ紙にのせ。懐中し。炭斗持入べし。
扨掃除持出。炉辺を静にはき。胴炭をも勝手の方へ
たきこむべし。
此間に上客より。挨拶して。魚会見て四畳を。末礼見済みて。
又上客へ戻る。末より上客へ御とりもちすべて　礼をかけて上礼へむかひて戻るべし　上客ふりかへり
見て。亭主の出し所へ。座おとなふへ戻るべし。
扨亭主ハ礼をなし終て。かむりとるハ勝手の方にかるべし

掛物香合見入るべし。客一同に礼をなすとき。なと八上客よりすること也。扨亭主勝手口に然して時に至き語をなして。程を見て勝手に退く。勝手口は志め切てそく寄るへし。

らひ。湯漬志んずべきよしいひて引入也。扨膳部そのへ志づかに勝手口にて上客より末まで。順に搬び出す也。客は中より受ていう亭主も式礼を。是を勝倒也。扨主人おいて勝手口へもどり志づかにまんぞへきよしいひて。勝手口志め候也。客は右の挨拶を受て。かくひに停まらせなどいひて。勝手口の志まりをまちて。

各々会釈して食すべし。扨本盤食し終る比。亭主引盃銚子お出。上客より一献づゝ汲むべし。客銚子是へと申すも酌献は是非亭主に注ぐべし。客も強辞儀に不及。扨末座まてつき終て盃台は勝手際に持しとき。銚子持入。扨飯継持出候。飯継の下に給仕盆をかさねて出て。飯継は客のあつかひよきやうにおく向をきて。汁をとりて出候也。各汁久終て引替出すを仕方也。又勝手まて汁椀おくるゆ。汁を盛うち引もの見く持出候。客は汁ふ給吸切ふさぎして出すをもつて仕方也。客汁もん

盞せずして出る時ハ亭主へも盞をさして お出し候
ものなり。亭主の心をひすくなきやうに盞さして出るを
扨亭主汁かへやうち。客も合せ飯をそう。次くへ鉢を
なし。右の客。飯器のむきくなきやうよして亭主の方
勝手口の所へ出しぞく。扨亭主汁かへ持て飯器
元入。扨それより煮物もそれ或ハ焼物もそれも持出候。重引
あれハ上客ニ任せ。上客それて扨湯飯器持出。神の如く
ありて汁かへかべきやとうて後。客汁かへ替よし亭主。
鉢お入。銚子持出。上客ニ任せ。手づからまいらせ候つし。升

あらハ次に出るく居中など。挨拶大へき事也。汁るに
亭主もしてゆする事也。客より亭主へも志してゆ　扨志て
てその挨拶ある例也
め持て。吸物をもち猪口肴をそも持出候。此時飯器甚
外。跡ニ取るものハ皆元入。扨銚子も持入。間を数め。
元肴と持出。上客の盃をやうふ転。客ハ新盞流出し
ふて。流亭主の盃。やうけきさよし云。是を例とす。
亭主是兆とあらハ上客の盃を亭主へさも付る
の事。平生の事なしと功者不功者の事なり。

くハしきしかるへし。扨盃事終て。土盞ハ肴台にのせ。
銚子と共に入るへし。扨湯かんハ湯桶をのせ持出。蓋をとり
杓子にてそろと湯をたぶて。客の扱ひよきやうにかう向
客の前におく。蓋も台にのせ引入へし。焦しうち水なと
へ出す事もなし
扨湯台まで服をとりし。湯の時亭主の物出すにもなし。又
初より揩にはなく事もなし。又茶室引の内へ組入て出すも
もなし。撲様に出すし。扨組先終て。勝手口を志めて入
るなり。客湯を喰し終て。箸をのこひ。膳にはなくと窺ひ

て湯台をお出。湯次第のものを取入。扨膳を下るなり。
客ハ膳を上て亭主へ渡し。式礼を始揩を居し
時の盃也。とも例。但功者なりては。めづらしくの
なき事也。扨菓子をもち出。路へ台まても或ハ一組
にしてふ字楊枝をへてもちきたるなり。扨勝手口志めて
入へし。客菓子食し終て。路地へ出る。是を中立と云。
出る時分一応床のうち釜居の丸或ハ板
なとのたんかしきハ畳て勝手口に座しそく
亭主ハ客湯を喫するうちに。路地に水うち手水鉢の

水さしへさく。たもこゝろをつけ札なとけしふめそくべし。
右初入より中立までの趣ハ。口切正午の茶の湯の仕方なり。或ハ夜咄し。或ハ風呂の前。或ハ時刻よりも客より各格のみさし。此等ハ折ふし違ふ事なれども。初心の童蒙をしらしむべし。

扨客出て掛物をつし。花を生け水さし盃付。茶入組付なく。○点前ハ家々の習の通り此等
掛物等のならひ習の通り かくのごとくして。
扨後の迎ひにも同趣。初入の時のごとし。腰掛へきき

路地ゟ。又ハ老人なとハ。鳴物を打てしらする事もし。○打様ニ習あり
扨客の入様。初入の趣ゟハる事なし。釜へ入て床を見。飾付を見る趣。すべてゟハる事なし。座定て。亭主茶碗を出。習の通り水さしのまへ組付。こぼし置出。繕ふ口しめ。炉をもひ釜をしめ。柄杓置。引切置。座前へなき。
柄杓引切まゝ仕舞時。各相礼をし。扨客ハ花の挨拶する事。
是ゟ例
功者はいうての仕方ハ
格々の了簡次第
点茶の仕方ハ家々の傳の通。家々の習ひにしたがふ

亭主拭茶巾を出し。ふくさハたゝみふくさにても。或ハ
たゝみふくさにても絡ハ碧の色　色ふくさハ志らハのこんひ緞中しても又つミて綉手口
よをきて此出し候事也　切つき茶入壺のふたハ可し　客ハ茶碗。ふくされて主客の
方よせき辞儀して。ふくさたのみよせき。茶碗をすへて
茶の色を見。いたゞきて喫し　亭主も茶を出しかたハまづまいらせくて仕出し候と挨拶時宜によるへし
上客のみて次へわたし　口傳　次の客ハ茶碗の
来ルおこ其次の人へ渡と辞儀して。拭茶巾をうけ
いたゞきのむ事始のことし。末まて右のごとくして。末

座まての人切て茶碗上座へ戻し　すべて上座へ物を戻す事ある時ハ座を出て上座
の方へむかひてかどにものし末座のものも次第に上客より順に座のへ
挨拶時宜によつて亭主も次第より座ハ大体いさとつきさとの
挨拶あつし座の
挨様にすべし
亭主ハ上客の二口斗茶をのむをまて。釜の蓋を志めて
柄杓引切にかしへたゝみ。客付へ膝をむけ。末を茶碗
をまちて大体すつきよし。又か古格し。末座をのき切トろ
よし。又茶倒。拭茶巾上座へ戻し順番。又釜よむかひ
引切出し。釜の蓋そう茶巾ハ蓋の上へおろ。水さしの

盡てとり。むしふくろて釜へ水一杓さして。むしふくを
釜にかけ。茶たんの蓋とをまつ 但し引切出し。むしふくも ふくろて釜蓋ふくろむしふくを
すぐに釜に掛け仕方もなし
上客ハ茶たん蓋とるハ。一覧して次へ廻すも。未だ拝見
て又上座へかえすも。上客始亭主の出し置ける所へ戻す。
亭主茶たんを元香口(のどくち)を見ると花点(かんが)をかざして下さぞく
時。主客礼をする事常例。 茶たんの作を問詰(しゆう)をふづぬ所事 時宜によるべし
亭主茶たんすりぶてこほしへすゝ問ふ時。まつ流仕舞ふへ

と客よりやへし。若客より次ハ亭主よりまつ仕舞
やつきよしと云べし。 濃茶て濃茶(こいちや)を事。其余ハ薄茶(うすちや)とも 有けの事とさすくハ其身し
扱ちやたんすくよりして。釜へ水さをまでの仕方。始、の
客の気。水さし終て。釜の蓋しめ。むしふくて蓋置にかけ。水
さしの蓋しめる時。茶入。茶杓。袱紗を事常例。亭主よ
あて。右之種出し候。家への客に志さるべし。 若之後の客
いひ落しぬるものをハ出すもましさて とりかのをハ何もせも出をつまて 客ハ亭主の出し
こ所やうをよく見て。おへえよもとき。扱亭主の水指

迄入までの仕方を見。勝手口しめて後。扨客挨拶して。
三品の道具見る事也。見終る時分。亭主出て是を取入
し。客ハ亭主の出しゝ品道具を
めつくて其の所へ出すべし　客道具の礼をして。
不案内のものハ心やすく問ひたまひ。花生筒などの銘。或ハ
作者なとも。細工所はゞひざ品ものハとりまで問ひつくしおち
志まいふものとハ問ましきなり
扨亭主たばこ盆など出し自分も勝手口に退して
煙草のみなどして。心得さて話をなすすぐに次へ通りて濃茶

立派事など茶などそのほどく
佗びなと小刻み切もてなしもよし　扨ほどを見て後の炭
をするなく後の炭組の炭の模様よろしくは炉中ゆりて置
置し。炭斗も下火率し灰をまきてくづはし。炭し終
て礼をなき。干菓子やうのものを出し。濃茶点ぬ
ける清談のこと。或ハ雑談に及ぶなり他の茶の湯の議論
こしなひつべし。扨濃茶終て。ほどを見て退座すべし。
扨亭主送り出ぬものへ。腰掛にまち合居べし。
但礼茶もて互の挨拶すましたるハ其まゝ帰るもよし

後日に一礼に來りし。或ハ出縁もそも。主方よりもれ
出席よしの礼ふあつし。是を後礼と云
右近送一般者ハ古宗、匠の仕方をまなひて童蒙の
ためニ便するもの也

○茶坐摸範

茶座の座ハ禅に座する座のごとし又且座と作ル
且ハ苟且にてかりそめの事なれバ禅の趣
を離れずといふなるべし。黄檗僧の語に喫茶一味の禅と云。
或ハ茶味禅味と云。すべて茶人ハ茶禅する事。古宗
匠の掟也。茶禅同味とも云ふなり。茶座の名目
ふ風事と見しきり。其作法主客共に秘伝として
花炭香の茶を日々にする事也。別ニ競茶事の三
時に入也。是如心斎の工夫にして。其法一たび立て。又
似する事をつゞけ。又増損すべからざる風の規矩と。
半東。或ハ半頭に作れり。かうらくハ搬當と云て。搬

當と云事ゟ成べし。客方三人主方二人。其一人ハ付搬當也。茶飯かくてくの時ハ搬當ハ同座の人ゟ。或ハ召使ともよくそうしへをさて出をつとめ也

(搬當之字見小説)

一客出地へ入より中立までの挨拶ハ。迎送一般の事のごとし。但亭主炭致しるとも火おこし。炭をつぎにてて地分かろくすべし。炮ものかえへかくべき。主合ハ出をへし(客主合のときは立つべし)

一中立し客ゟ合せ。主炭花の後よ〆く。主の客ハ上地ニ成ず也。其餘ハ定地なし

一亭主ハ床に花生置付ル(置ても生ても。かけおいけても。掛物をつてもよろしき。かける)かしよろしとも好んでゟ

一茶器ハ如何も棚のように成丸棚によりいろくの飾やうあるべし。濃茶器も初より飾をく成し。但し中立お(ハ濃茶器)手様好とるしさがふべし 右飾付ハ棚によりより。時節によりよる。亭主の好しだいなるも。ふかくさくまれ有べし。右其大格を志るも其家之德利すべし

一 茶席かざりすまして。むかひに出候。或ハ鳴物にても
しらせへし。茶入炭の事あり
一 客茶に参き候て。亭主より勝手口明。挨拶礼し。
さて亭主の茶にはく。 亭主の茶 客にしらせ
一 搬當について花器持出。勝手口に茶をさ。但花器に 花二三久
小刀水次手巾右仕也 香盒 ときて茶器をおまね へ居る 掛物定て搬當花器持立て。
床の前に出しとき。又勝手口に茶して。炭斗をもちく
居れし 炭斗火ちし ねむりき 釜しき 香合ハ組入ましを

一 搬當末茶器持て。亭主客よむかひて。ひと跪礼を
さハ客ハ花不也 するの礼にて 客の内花をつき人。右の礼をうけて立
て床おへり。むを生るし。掛いけ候て茶へ久置う。
一 客茶へ向て茶ハ床をえて。搬當又炭斗持立て。
茶の所にとき。向床に次に花器持入。掛灰ほうろく持出
客の所にとき。又勝手口に茶して。炭器をおまにとへ
居候し。香盒に炭炉 点炭器三連う 炭むし紙てさみ
一 搬當茶によきへ床をえて。亭主又客にむかひて跪

礼を。是ハ炭を所望するの　礼容あり　客の内炭すへき人。立て灰
ほうろくのある所に到してほうろくを取持立て。炉辺
に到して。右のごとく炭する也。但し点合組入有とも炮
ものハくだもの。炭をハ亭主も客も。云状しそうて見聞。
見終て本勝手に帰く。炭の客炭し終りてほうろく
持立て始の所にさきて本勝手に帰く。
一客本勝へ座をえて。搬出又炭斗を持立て。上勝の
前にさき掛次に灰ほうろく持入。但し炭斗持出時ハ亭主の右の方にして

客前に到して下にさきて搬出しを客の方へ向し　搬炭斗を扎入勝手口に到れを。
一搬出勝に帰くを見て。亭主上勝へむかひ跡礼を。是ハ炭をさき
搬出との礼容し　客うけて。炭炉をたろし。紙を置。炭を紙上に
をきて亭主にむかひ礼をなすを。是ハ炭を見るとさての礼容し
香炉を取上げ。いうきてろときて。次へ出を。次の人
より次礼して。炭炉をいうきくく事お同し。亭主へ
も出向へし。亭主きりて又上勝へ戻る。但し亭主上勝へおわり事あるべく
ひらき常も　上勝へ炭炉戻しかりハ。今一廻きりて炭を
あり

取おさめ。神撤菓のさき小襖所へ盆をもち出て、かへりむけ
おくべし。
一香炉上座へ廻りて小服をのみて。搬当茶わん持立て
勝手にさがり。濃茶(こいちゃ)器(き)をおろし茶の湯水さしにて付。
内にて次に立釜持入。水こぼし持出品の所にをきさて
かざりぐへくし持出。勝手口しめ。くぐりは上座の前にをく。
此時亭主の座を搬当に譲(ゆづ)る　ゆづるとは座を明て　たの方へより居べし　さて
搬当亭主の座に付く。

一搬當此時に付くをみて。亭主立て釜(かま)居(ゐ)に出して
前のごとく濃茶点(たて)候べし。上客は菓子(くわし)を出(だ)し候べし。
ふかし搬当(えんとう)出して。搬当又持立て上座へ廻るべし。
但し行くへ　搬亭主蓋置(ふたおき)に柄杓(ひしゃく)をかける時。拙礼。
かへりもちを
すべて前にかはる事なし。
一亭主茶点(たて)出し候へば。上客礼て次への礼。いづ
れも前のごとし。搬当へも出すべし。搬当茶をのみ
終る時。上客搬当へ会釈(ゑしゃく)べし。是は茶わんを先の礼　すぐ
下にてる礼すき時は直さ

茶ぼんを亭主へ、　搬者右の礼法をうけて。茶碗を
うしろにおくべし
上座へもどす事。すべて末座のかよひいつまでも
かようにする事なし。但し見て出しさし候茶ぼんは二
段上座へはもどさぬ。すぐに亭主へ戻すべし。
一亭主茶ぼん戻すさうハ。そうて下ぶとき熱礼を
おさまての仕方常の濃茶点に。かよひいつまでも習つ
事なし。但し茶ぼん一ぷんすぎて下るとき。搬者
の立つハあれし

一亭主茶ぼん一ぷんすぐとみて。搬者亭主の
飛をとり戻を。飛をとりもどらハ　さたへより居なし　扱亭主ハ座にはやくと
見て。搬者立て釜居に座し。薄茶器おろし。
ふきて掛手の方にとき。茶ぼんすぎうすを茶立ん。
一搬者濃茶点くようして。茶碗の縁ともとこま
より云ひ伝語應對平生体。但しうすちや一ふく点て
出しさうハ。濃茶。袋等をもへし。或ハ濃茶碗て
四種共ニ事もなし。いつまでも涜てうすちや点つ時

の仕方之。

○茶通見様之事

一亭主搬出共ニ裏も是ゟ袋をとらくへし

一ふくさハ路々ふくさ始終さけつ

一客迎入前より花生ニ花 小刀 水次 手巾 但し

花ハ二三種ニすゝへう次

一炭斗ニ炭迎をくへし 羽帚 環 釜敷 火箸

但し香合ハ除置くへし 灰ほうろく

一香盆ニ 香炉 但し火をとり灰をして火かげんをろを清くへし 重香箸 但し三重

子床を身上の重ニ香。但し路ニてろへ出。つきとり出。二種

入時ハ揃置事之。中の重ニ路。下の重ニふきから入候なり

香をさみ 香ばし

一茶碗 水建 但し花炭共ハいづ迄も仕立置て搬出

おまおく居ル子達とも茶ちんこ同しハ

かハきに床をきらふ元兵の迎床うちに

仕立出つ之ことま之ハ搬出の見様なり

○濃茶取習事

一搬出て釜居ニ坐し。濃茶容ヲおろし前ニ置き。

ふくさ捌き。茶器をふきて。こぼしの白。右の方へよせ

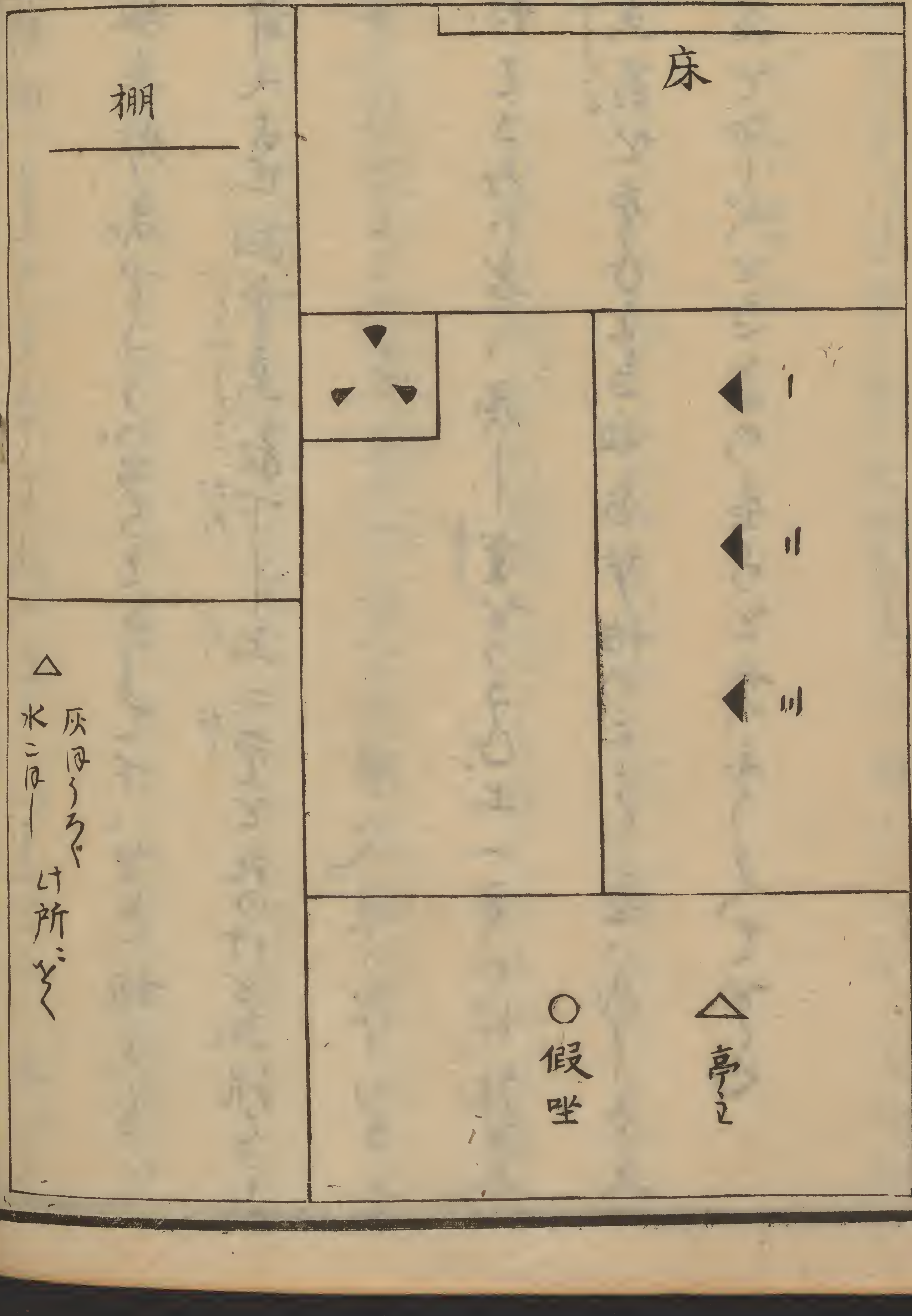
ときて。扨茶きんすゝき。濃茶筅の上に置茶しやくをそへ。淡茶筅そへて。茶をくみ立候て。此時客より濃茶筅を乞へし うけ取てまづ一服点つて 扨一服点出しときて。茶しやくをふきて。棚の上におくと上とき。扨茶入を前へそり。淡茶筅を其処へ出しとき。扨茶入をふき出すこと。此時袋あるものなれば。袋をも出すべし。扨茶入出しあらば。客前へ礼をなせとき。其処へ茶きん出すとへし。扨茶きんそり倒のごとくすべし。棚の上に置茶しやくそり。淡茶筅そへて。茶を抜点て。茶しやくハ淡茶筅の上におく。此時は客茶入見て返し 亭主より搬南へ戻すなり 扨茶を立て出す。次の客茶きんと礼ぶ。其処へ茶入袋戻すこと。搬南にて棚に上げおく。袋も棚におくなり。又勝手の壁付におくもよし。

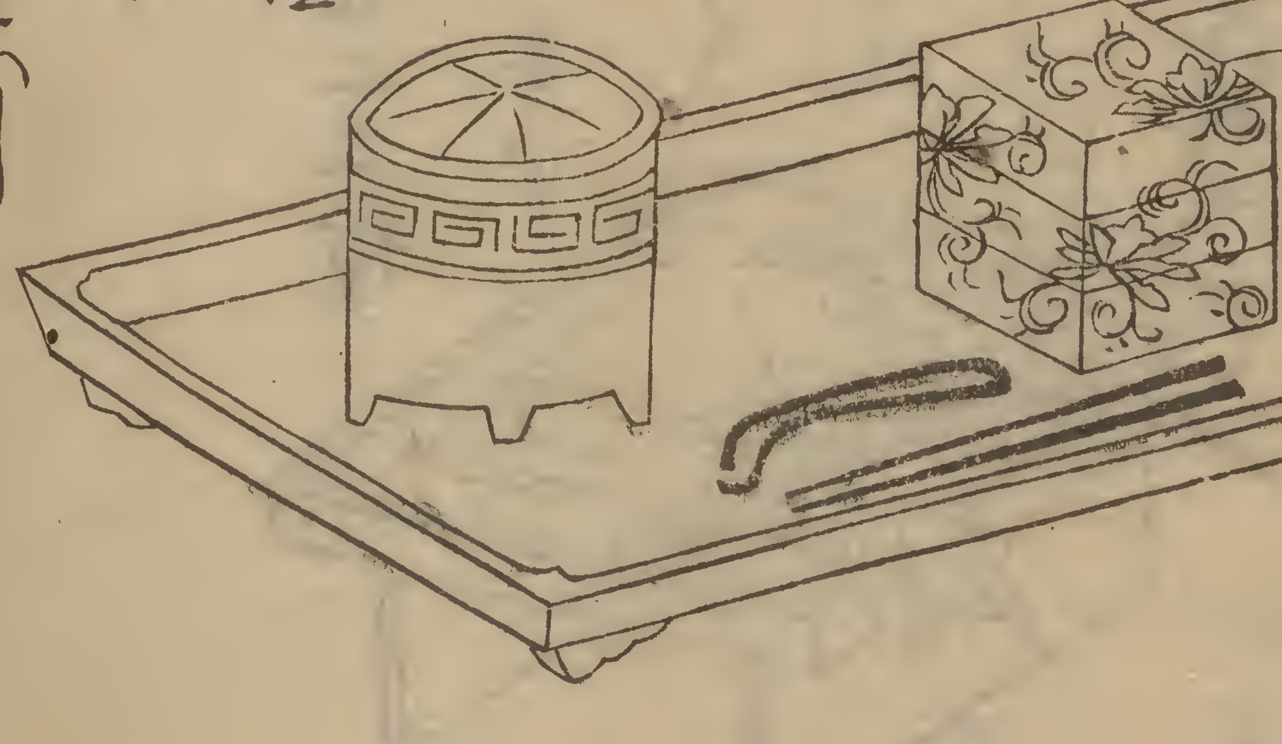
○客心得之事

一、花の入やうよくかゝりを見て先手前に生け見ておく生こおりてハ。ものゝ手をとるをやうにすべし。よく生べしとて隙の入をきらふ。

一炭取に火合ハ組入なれバ主とも客とも入るとも炷捨
くだなり略し
一、香筯しらひ先ヅ盆をおへよせ。火炉を下し。扨火箸をおろ
し。上の重ハ火盆乃正中へ戻し。銀葉さしを取。銀葉と
さしを。火炉におき。扨銀葉さしハ火盆へ戻し。扨上の
重をとり。前に出重にかさね。蓋をとり。香つゝみを出し。
ふくさ。火ばしをとり。火を直。火ばしハ盆へもどし。
包ハしらみて。火箸へ入。蓋して盆へもどし。扨亭主

辞儀してうときて次へ回も。扨盆を前へよせおく。
扨香炉戻てハふくときて下こをき扨火盆を
前へよせ。扨重火箸下し上二重を丸のけをき。銀葉さし
とり。銀をさしさみ丸。こきがうを下の重へ入。銀ハたなつまし
捨。さみハ盆へ戻し重をうさめ。上一重のけ銀を入。
火箸を重ねをき。扨香炉始のごとく盆へ戻し重火
箸をかくべき盆の真おさ前へかうくておく



花盆に花二三種
小刀水次手巾
かくのことく
そへおくへし

香盆ニ具炉重香
盒ハ三重子成を用也
居し上ニ具中ニ銀葉
下ニ火末具入し銀と
さこかくのことくそへ置
へし又火筋立ニ具火筋
銀はさみ具まくひ三種
あくすも具灰ハ五合ニ
をさそへし